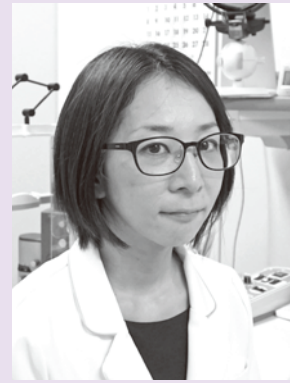


私のカルテ

No 3 9 1

白内障について

津島市民病院
眼科医長中村
あや

ものが見える仕組み

私たちが目で見ている像は、光が角膜、水晶体を通り、網膜に当たって映像となり、映像は視神経を通して脳に伝達されます。眼の構造はカメラと似ており、水晶体がカメラのレンズ、網膜はカメラのフィルムに相当します。

白内障とは

水晶体は水晶体^{のう}嚢という透明な薄い膜に包まれており、水晶体が濁る病気を白内障と呼びます。原因として多いのが加齢で、早い人では40代から、80代では大部分の人にみられます。その他の原因として、先天的、外傷、アトピー、薬剤、放射線、炎症に続いて起こるものなどが挙げられます。初期段階では自覚症状はほとんどありませんが、徐々に霞んだり、物が二重に見えたり、まぶしく見えるなどの症状が出現し、進行すれば視力が低下し、眼鏡でも矯正できなくなります。

白内障の治療

ごく初期の白内障は点眼薬で進行を遅らせることができる場合もありますが、改善はできません。進行した白内障に対しては、手術のみが治療法となります。

白内障手術について

手術は局所麻酔で顕微鏡を使って行われます。手術方法は、2.5mm程切開し、吸引管を挿入して超音波で水晶体を砕いて吸い出し(超音波水晶体摘出術)、残した薄い膜(水晶体嚢)の中に眼内レンズを挿入します。ただし、進行した白内障は手術が難しく、他の手術方法となる場合もあります。



眼内レンズについて

眼内レンズは大きく分けて単焦点レンズ、多焦点レンズの2種類あります。当院では保険適用のある単焦点眼内レンズを使用しています。単焦点レンズは水晶体と違いピントを調節する働きがないため、ある範囲でしかピントが合いません。そのため術後も眼鏡が必要となります。多焦点レンズは、近くも遠くも見えるという老眼対策として開発されていますが、保険適用外です。また、単焦点レンズよりも少し霞んで見えるようになる場合があります。近年乱視矯正用の眼内レンズも開発されています。新しく開発された眼内レンズが良いということではなく、年齢や眼の状態などに応じて使い分けられます。

手術後の合併症について

白内障手術は現在とても安全なものとなりましたが、それでも合併症を生じることがあります。具体的には水晶体嚢の損傷/水晶体落下、眼圧上昇や、重篤なものでは水疱性角膜症(角膜が濁る病気)や細菌感染による眼内炎等があります。状況によっては眼内レンズを挿入せずに後日再手術や別の矯正方法(コンタクトレンズ)を検討する場合があります。

後発白内障について

手術後数カ月から数年後に水晶体嚢に濁りが生じる現象です。濁りの程度が強い場合は視力が低下することがあります。外来でレーザー処置を行い、視力を回復させることができます。

見えづらくなったら

「最近見えづらくなったけど、白内障かな」と相談されることがあります。しかし、見えづらくなる理由は他にもたくさんあり、早期に治療が必要な病気もあります。見えづらいつらと感じるようでしたら、一度眼科受診をお勧めします。